

## 瀋陽医学院開校式に招かれて

東京都 藤野 貞

満州、われわれには昔懐かしい地名です。近頃は日本人が中国で悪いことをしたとばかり教えているらしいが、生涯を満州に捧げた日本人もたくさん居たはずです。満州はぼんやりしていれば嘘つきロシアが入り込んで、また別のご苦労をするところでした。

私が白杵中学4年の時、楽しみにしていた例年の満州修学旅行が取りやめになった。諸君はいずれ満州に行くのだからとうまくまるめられて、釈然としないまま流れてしまった。あれから60年、よぼよぼになってようやく望みが叶い、満州の土を踏むことになりました。

### 瀋陽医学院何氏眼科視光学院

瀋陽（旧奉天）に新設の私立眼科大学が出来る、その開校式にということで招かれました。6月の予定が9月になり、9月は忙しいので24日から4泊のみの駆け足訪問でした。

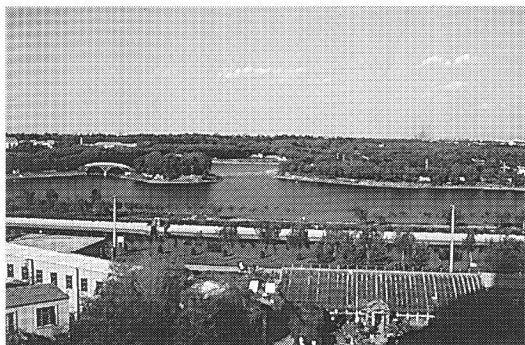
新設大学というが、まだ大きな眼科センターで、市内3ヶ所に立派なビルがあり、地図をみ

るとその外にも2ヶ所あるらしい。滞在期間が短くて細かな様子が分からずじまいでしたが、瀋陽医学院何氏眼科視光学院というのが正式名。すでに学生が何百人かいると。話だけでは雲を掴むように聞こえるが、お国の違い、若い校長兄弟「何偉」「何向東」両氏がファイトマンで、開校式に全国から多数の教授方を呼んでいて、近々眼科以外の学生も入れ医科大学にするという。

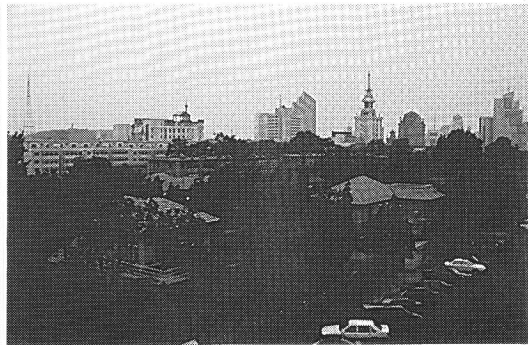
両氏は九大に留学されていたというからご存知の方もおいでになるでしょう。病院を建てるのに死にものぐるいだったとのお話でしたが、労力も大きい、やればやっただけ成果が得られるのはやはり苦勞のし甲斐があります。それが出来たお国柄と、なによりも時を掴まれたと思う。お二人がああファイトで続けられれば、遠からず医科大学ができるに違いありません。

### 開校式での講演の主題は白内障手術

私は無関係の神経眼科の演題「眼科疾患か？」



会場のホテル鳳凰飯店の窓からみた北陵公園



同じく窓から南方に見える北部市街（会場の様子は撮りそこねました）

頭蓋内疾患か？」という題で、冒頭に一席話をしました。検査漬けで原因が分からなかったものが、患者との対話で診断がついたという話。先進話題ではなく、むしろ後ろ向きの、コンピューターにばかり頼りなさんなという話。同時に国際学会で発表した診断図説を展示しましたが、誰も興味を示さないようで少し気抜けしました。しかし、後では用意したパンフレットがあったという間になくなったそうで、興味が無いわけではなかったのだと安心しました。1人でも2人でも、蒔いた種が育ってくれば本望だと思います。

日本からもう一人講演と手術で招待されたのは、校長と昵懇の人吉市の眼科医南宣慶氏。「エムック」とかいう水晶体摘出鉤を考案されて、国際的にも発表されているというからご存知の方もおいでになるでしょう。私は手術が好きでしたが近頃は全く分からなくなっていて知りませんでした。久留米ご卒業と、奇しくも同窓でした。何か出来る若い人は、力余った時は外に出て手足を伸ばされるが良い、国内は身動きできぬ満員電車のようなもので、足を踏まれたり肘で突かれたりして自信を失ってしまいます。南氏はファイトとコンピューターとを駆使して大変なご活躍でした。

### 鞍山行き

その日の午後、旧満州医大、中国医科大学を訪ね、昼食後休むまもなく鞍山行き。鞍山の病院でも話をしてくれということで、病院のマイクバスで2時間半ばかり高速道路を南下し、夕刻着。鞍山温泉という個室バブル風呂のある、日本とはちょっと趣の違った温泉村を訪ね、鞍山一泊。



中国医科大学、旧満州医大病院。河野彰先生がご覧になったら懐かしい建物ではないでしょうか？ 内部の写真も撮りましたが露出不足で失敗しました



大学の庭

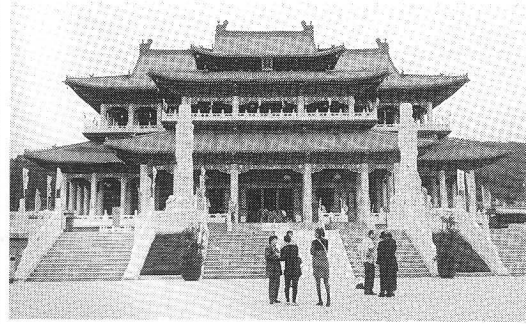


同じく大学の庭。中央に立つ石像は李時珍という「本草綱目」という有名な漢方薬書の著者

翌朝鞍山の病院で眼科スタッフや学生相手に講演、「手作りの安価な器具で診断し、高価な器械に対抗する」という、これも時代逆行の話をしました。電気で検査するのもいいが、肉眼でよく観察することは実地医療ではもっと大切と、ネパールで披露した話題です。貧しい土地もあるでしょうし、龐大な人口を抱えたお国の



鞍山病院



鞍山郊外の玉仏苑本殿。加藍も釈迦像も立派だが、仏の生い立ちを描いた連作壁画の人物像が超モダンでそぐわない

ことです、何処かで役立ててもらえるものと期待します。

昼食後、玉仏苑という寺を訪ねました。広大な丘陵地に散在する赤屋根の建物群は見事でした。

— . —

瀋陽で鞍山で、異国の風物にふれ、多くの人たちに交わって、活力を秘めたエネルギーにふれ、忘れがたい数々の思い出を残しました。

ところで、我々世代では、満州といえば「赤い夕陽」。是非見てみたいと楽しみにしていましたが、お天気のせいが見ることは出来ませんでした。

瀋陽から鞍山まで高速道路を移動の途中で遼陽の標識を見て、夕暮れの高梁畑を過ぎながら、

「遼陽城頭夜ははたけて、有明月の影すごく、霧立ちこもる高粱の、中なる塹壕声絶えて……」と、その昔の軍歌が蘇ってきました。

兵隊にとられなくてよかった、僅かな違いで運がよかっただけだった、こんなところを何処までも何処までも歩かされる兵隊にならなくてよかった。自分らが優秀だと思い込んでいた軍首脳共の、思いつきで始められた戦が恨めしい。どれだけ多くの人達が苦しみ命を失ったことか、無数の霊が眠っている、どちらが敵で、どちらが味方でしょう？

さまざまに想いをめぐらせながらバスに揺られていました。

……もしかすると、歴史は静かに繰り返されはじめているのでは？ (1999.11.11記)

2 鞍山病院での記念撮影。私の右が南先生、その隣が韓国龍山大学申教授。向かって右から



(玉仏苑影の声)、実は出来たばかり、あとで由来書を見て驚いた。3年前に付近の山で大きな玉石が見つかり、それに仏を刻んだもの。緑色の石の高さは7m余、重さ260噸で世界一という。道理で壁画の人物がモダン過ぎた、騙されたみたい。でも考え直してみると、日光の東照宮でも同じことです。出来たばかりの頃は有難味が薄かったかもしれない。今後数百年を経て、何千万人が訪れ莊嚴な聖地になるのでしょうか、そのはしりに足跡を残してきたわけです。